

感染症対応に係る搬送等訓練概要

1 訓練の想定

背景

令和5年11月中旬にアラブ首長国連邦で中東呼吸器症候群(MERS)の感染拡大が起こり、12月7日に日本国内でも1例目の患者が発生した。国からはMERS対応に係る感染対策や医療体制に関する通知が出され、本市と北九州市医師会からは、市内医療機関へMERSの診療に関連する通知が出された。

患者の概要

- ◆患者：小倉^{こくら}花子^{はなこ}(女性、48歳、会社員)
- ◆居住地：北九州市小倉北区
- ◆経過：令和5年12月 6日(水)～ 観光でアラブ首長国連邦(ドバイ)に滞在
12月 8日(金) ヒトコブラクダに乗り、ラクダに顔をなめられた
12月14日(木) 帰国
12月15日(金) 午前11時頃、発熱(38.5℃)、咳症状あり
午後13時～小倉北区のA医療機関を徒歩で受診

※A医療機関から「中東呼吸器症候群(MERS)の症状を疑う患者が受診している」と、保健所へ相談が入るところから本訓練を開始する。

2 訓練の流れ

順番	時間	訓練内容	場所
1	13:40～	情報伝達訓練	保健所、保健環境研究所、北九州市立医療センター
2	14:20～	搬送車両へ患者移乗	総合保健福祉センター 1階
3	14:40～	第二種感染症指定医療機関への患者移送訓練	総合保健福祉センター ～ 北九州市立医療センター
4	15:00～	患者受け入れ訓練	北九州市立医療センター 感染症病棟内

中東呼吸器症候群(MERS)

平成24年9月以降、サウジアラビアやアラブ首長国連邦など中東地域で広く発生している重症呼吸器感染症であり、その地域を旅行などで訪問した人が、帰国してから発症するケースも多数報告されている。平成27年5月から7月に韓国で感染が拡大したことで、国内でもMERSの体制整備を大幅に進めた。現在までに、MERSの確定患者については国内では報告されていない。

ヒトコブラクダがMERSコロナウイルスを保有しており、ラクダとの接触やラクダの未加熱肉や未殺菌乳の摂取が感染リスクであると考えられている。また、家族間や感染対策が不十分な医療機関などにおける限定的なヒト-ヒト感染も報告されており、これらは、咳などによる飛沫感染や接触感染によるものであると考えられている。感染してから2～14日後に発熱、咳、息切れや呼吸困難などの呼吸器症状を引き起こす。

【NIID国立感染症研究所ホームページ、厚生労働省ホームページより引用】